

6. 学術大会運営委員会*1

平形 道人*2 (委員長・慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター)

活動報告

日本医学教育学会学術大会(大会)は、「医学教育」を学問する学術交流の場であり、教育や評価の実践を学ぶことのできる Faculty Development の場でもある。本委員会は、21 期(2020 年 9 月)に発足し、大会を「より楽しく、オープンに、そして科学的に」するために、「継続性と実現性 (Sustainability & Feasibility)」を Agenda として、プログラム・財務・国際化・ICT タスクフォース (TF) を立ち上げ、大会主催機関(大会校)とともに、毎月の委員会(計 18 回、2022 年 3 月時点)と、第 53 回大会ポストカンファレンス・ワークショップ「大会プログラムの将来」を企画、開催し、議論を重ねてきた。各 TF の活動内容と展望について報告する。

プログラム TF 大会プログラムの質向上と継続的な大会間でのネットワーク構築を目指し、第 53 回大会(自治医科大学)、第 54 回大会(群馬大学)、第 55 回大会(長崎大学)主催メンバーも参加し、1) 学会抄録査読プロセスのマニュアル化と医学教育専門家/国際化委員会との連携、2) 大会準備・運営スケジュールのガントチャート作成、3) 大会校と各委員会・部会とのネットワーク構築、4) プログラム作成における大会校の支援、を実施してきた。今後、これらの具体的な取組内容を共有しながら、プログラムの将来を創造するための検討を行う。

財務 TF 学術大会収支を安定化するために、

その課題を明らかにし、長期的視野に立った改善計画を立てることは重要である。その端緒として、財務内容を可視化し、継続的な検討を可能とするために、収支項目の具体的統一化を図り、将来的にも共用できる収支細目表を策定した。さらに、大会財務の問題点、中長期的展望について検討する。

国際化 TF 医学教育の国際化のため、大会では国際化委員会や各大会校により、海外医学教育者の招聘講演、韓国・台湾との交流、International Session が企画されてきた。コロナ禍の影響により、2 年間続けて現地対面開催が困難となったが、これは大会における国際化のあり方を考える好機ともいえる。従来の学会の国際化への取り組み、大会の国際セッションの運営、財務について振り返ってきたが、国内外の状況を踏まえた展望を行う。

ICT TF 学会運営のデータ化を提案している。第 53 回大会より事前参加申し込み制を開始し、参加者の属性などのデータの活用する登録時質問票を策定し、調査した。今後、多様な参加者へのアプローチが実現可能となり、特に、教育に興味のある学生や研修医、専攻医についてもアプローチしたいと考える。

副委員長：錦織宏、委員：浅田義和、磯部真倫、鋪野紀好、清水郁夫、田中淳一、橋本忠幸、森茂久、門川俊明、矢野晴美

*1 Scientific Congress Steering Committee

*2 Michito Hirakata